

＜今年度の取組成果＞

- オンラインワークショップ・現地施工ワークショップの開催により、全国から多くの参加者を集め、**平地の杜づくりを実践**。参加者や地域住民との**人的交流が進展**。
- 情報発信ツールとしての**パンフレットを作成し、活動内容・将来ビジョンを見える化**。一層の**賛同者や担い手の獲得を目指す**。
- **中期的なロードマップの作成**により、**将来を見据えた持続可能な取組に向けた道筋を明確化**。

所在地：宮城県石巻市北上町

主な用途：緑化推進（平地の杜づくり）
育苗事業等

■ 位置図



1. 目的と背景

移転元地を対象とした「**平地の杜づくり**」活動により、**地域自然環境の再発見、関係人口の構築、住民同士の協働を促進して地域活性化を図る**

- ・ 石巻市北上地域では、震災後、**集落元地の荒廃**が進み、**外来種植物の繁茂等の景観の悪化や生態系への悪影響の懸念**あり。
- ・ 住民の高齢化が進んでおり、**民間活用を望む意見もほぼない状況**であるため、**海岸低平地の本来の自然環境を取戻すため「平地の杜づくり」に取り組む**。
- ・ 「平地の杜づくり」により、人が住んで・訪れて心地よい環境づくりを行い、**関係人口の構築、住民同士の協働を促進して、地域活性化を図る**。
- ・ 他地域も空き地問題を抱えており、本事業から得た**技術・ノウハウを再現性のあるものとするため、長期的に知見等を蓄積し、横展開を図る**。



十三浜長塩谷地区

2. 本取組のターニングポイント

- ① 杜づくりに向けて**地域住民**を巻き込んだ準備をすることで、**取組への賛同と主体的な協力を得ることに成功**
- ② オンラインワークショップ等の情報発信を工夫し、**全国から参加者を集めた施工ワークショップを実施**
- ③ 目指すべきゴールを想定し、活動の広がり継続に資する**各種事業アイデアを検討**

本取組を進める際に想定された課題

本取組は、山林や畑への植樹ではなく、**宅地であった移転元地を対象に杜づくり**を行うという点で**全国的にも事例がほとんどない**。対象地を自然回帰させ豊かな環境として持続するためには、従来型の植樹ではなく、**植生基盤となる土壌の環境改良から取り組むことが必要**であった。また、本取組は**長期的かつ広範囲に取り組む必要があり、得た技術や知見を継承し横展開することが必要**であった。これらの問題意識を踏まえ、令和3年度は以下の課題解決に取り組んだ。

- ・ 緑化技術の習得のため、**土中環境の改善と森作りの実績を多数有する専門家の招聘**
- ・ 本取組はマンパワーを必要とするため、**地域住民だけでなく、平地の杜づくりに賛同する仲間づくり**
- ・ 仲間づくりや平地の杜づくりの発展・展開に資する**広報活動の充実**
- ・ 収益を生む等の**自立した活動ができる素地の構築**

今年度の取組項目

- I 対象地の**土中環境改善**の作業
- II **種子・苗の採取、植樹**の作業
- III ワークショップ実施による**地域の巻き込み・関係人口の創出**
- IV 活動内容の**見える化・情報発信**

3. 取組経過や主な調整プロセス

6～8月 平地の杜づくりに向けた準備の実施

- ▶ 平地の杜づくりの準備として、**落ち葉ポストの作成や地域住民への周知活動**を行った。※p6-4 図3 参照
(現地施工ワークショップ後に住民の主体的な協力に発展)
- ▶ 技術指導・監修のNPO法人地球守代表 高田宏臣氏と協議を重ねながら、ワークショップの企画・準備を行った。

ターニングポイント①

杜づくりに向けて地域住民を巻き込んだ準備をすることで、取組への賛同と主体的な協力を得ることに成功

8～9月 オンラインワークショップと現地施工ワークショップの開催

- ▶ 8/27に平地の杜づくりに向けて「土中環境」の考え方を学ぶ**オンラインワークショップ**を開催した。(約95名が参加)
- ▶ 9/24～27に4日間に渡り、杜づくりを実践する**現地施工ワークショップ**を開催し、全国から多くの参加者が集まった。(延べ150名が参加) ※p6-4 図2 参照
- ▶ 参加者との**人的交流が継続**(各種事業アイデアの検討に発展)。

ターニングポイント②

オンラインワークショップ等の情報発信を工夫し、全国から参加者を集めた施工ワークショップを実施

10～3月 平地の杜づくりの情報発信ツールと中長期ロードマップの作成

- ▶ 緑化に取り組んでいる団体や育苗事業企業への視察を実施した。
- ▶ 平地の杜づくりを持続可能な活動とするために、取組への賛同者を集めることを目的とした**パンフレット**を作成した。
※p6-3 図1 参照
- ▶ 今後の取組を明確化するため、**中長期のロードマップ**を作成した。

ターニングポイント③

目指すべきゴールを想定し、活動の広がり継続に資する各種事業アイデアを検討

主な関係者調整プロセスのポイント

- ▶ **地元住民との対話を定期的に行い、樹種選定等に住民の意見を取り入れつつ、杜づくりに対する関心を引き出し、関係人口の増加を図っている。**
- ▶ **様々な人脈を活用し、積極的に先進活動団体や企業に視察を行い、平地の杜づくりの理念や自分たちの事業規模にあった事業スキームを検討した。**



視察の開催

■ 「平地の杜づくり」の実施体制

一般社団法人ウィーアーン北上が主体となり、行政や地域住民、技術指導をする NPO 等と連携し実施

対象地で地域づくり活動を実施していたウィーアーン北上が主体となり、行政・地域住民・技術指導をする NPO 法人地球守と連携して実施している。

実施主体：

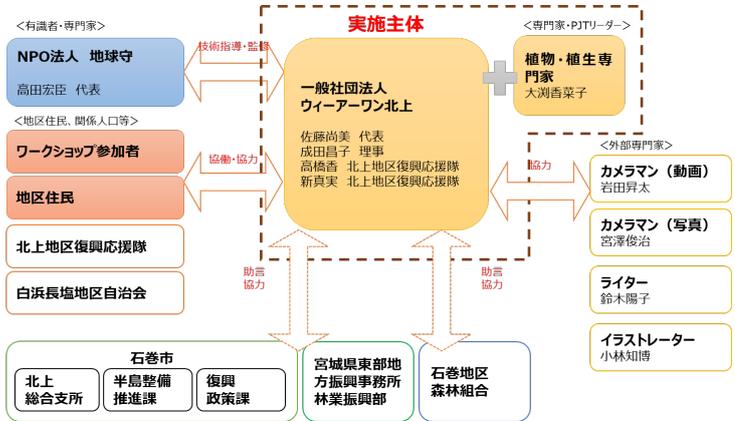
- 一般社団法人ウィーアーン北上

連携部署：

- 石巻市北上総合支所地域振興課
- 復興事業部半島整備推進課
- 復興政策部復興政策課

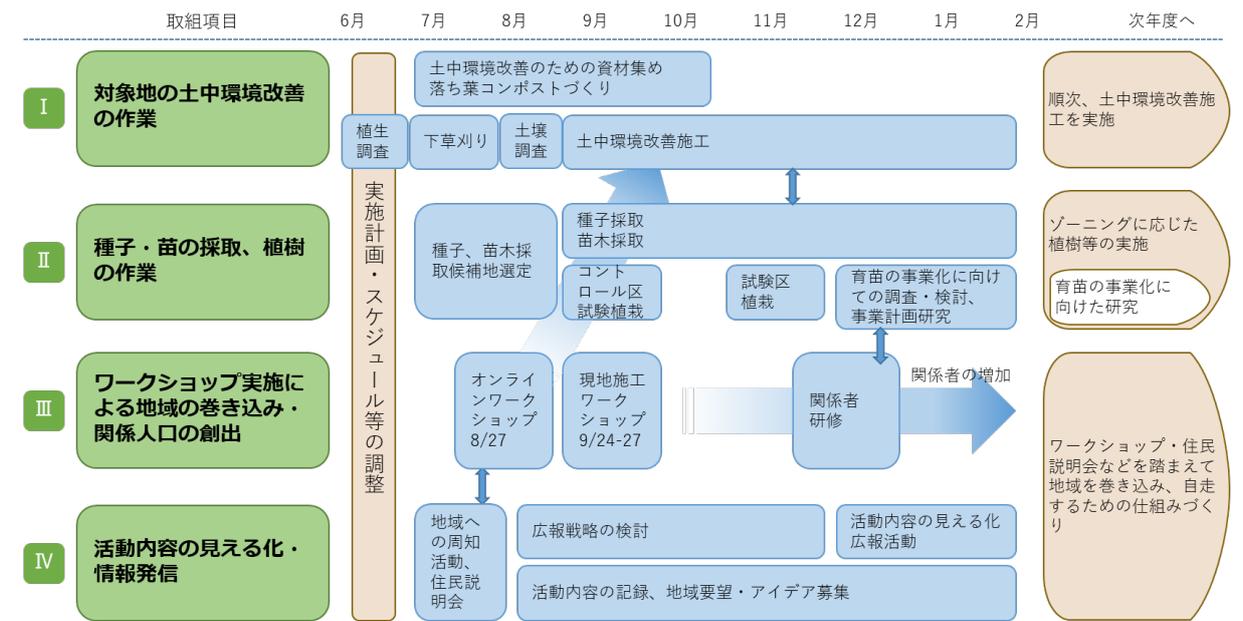
民間主体：

- NPO 法人地球守代表 高田宏臣氏（技術指導・監修）
- 石巻市北上地区復興応援隊（協働・協力）
- 白浜長塩谷地区自治会（協働・協力）



平地の杜づくりの実施体制

■ 取組工程



■ 取組成果や重要な検討資料等



図 1 作成したパンフレット

■ 取組成果や重要な検討資料等



図2 現地施工ワークショップの様子



図3 定期的に実施するようになった住民活動の様子

4. 今年度の取組成果

成果1 「参加者や地域住民との人的交流が進展」

- ▶ 落ち葉ポスト等の準備段階から地域住民との対話を重ね、人的交流が進展し、地域活性化に向けた一歩を踏み出した。

成果2 「賛同者や担い手の獲得」

- ▶ 現地施工ワークショップでは、隣接地域からのボランティア参加もあり、平地の杜づくりの賛同者を確認することができた。
- ▶ ワークショップ以降も住民と共同作業日を設ける等、地域に根ざした活動となり、担い手の一端を獲得することができた。

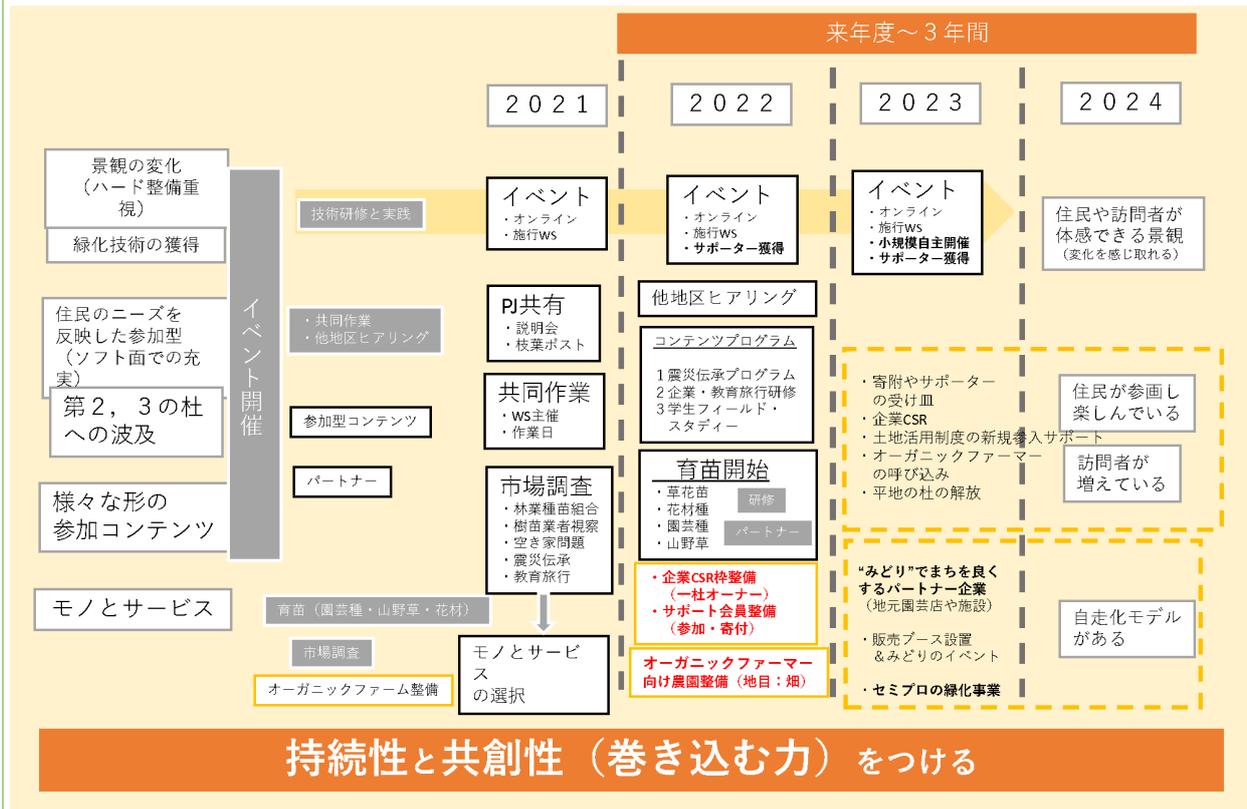
成果3 「将来を見据えた持続可能な取組に向けた道筋を明確化」

- ▶ パンフレット作成とともに、平地の杜づくりのプロジェクトを持続的な取組とするための、事業スキームの検討やロードマップを作成した。

5. 今後の方向性

活動の自立化・持続化を目指し、ロードマップに基づき活動を深化

- ・ I 定期的な施工ワークショップにより、住民や訪問者が体感できる景観を創出
- ・ II 賛同者・担い手を増やすために参加型プログラムを実施
- ・ III 持続的な活動ができるように、育苗事業や体験プログラム等の事業スキームの構築



6. 取組主体・関係者の声

これまでの状況や今回の取り組みにおける工夫や苦労など

- ・ 本プロジェクトが始まる前は、住民の反応が心配だった。しかし、プロジェクトが進むにつれて、住民が自発的に活動してくれるようになった。
- ・ 現地施工ワークショップでは、参加人数も多く規模も大きなものだったため、事前準備を含め調整に苦労した。この経験をマニュアル化していき、今後の活動に展開していく予定である。



一般社団法人ウィーアーワン北上の皆様
（佐藤代表：右から二人目）

ハンズオン支援事業で今回取り組んだ感想など

- ・ 対象地の景観が大きく変化し、住民の方々からも「変わった！良くなった！」との声が聞けた。これにより活動の理解が進み、地域を巻き込んだ活動がしやすくなった。
- ・ ハンズオン支援の中で、ロードマップの整理等、多くのアドバイスやアイデアをいただけたことがとても心強かった。また、他地域の先進事例も紹介していただきとても助かった。